

2002年 環境報告書

伊藤ハムの環境管理活動の報告

地球環境にやさしい会社を目指します



会社概要・2002年環境報告書について 2
 ごあいさつ 3



基本方針
 経営理念 4
 環境基本方針 4



事業活動と環境負荷 5



2001年度の環境活動ハイライト 6



環境マネジメントシステム
 (1) 環境活動の推進組織 7
 (2) 環境監査体制 7
 (3) ISO14001認証取得の推進 8
 (4) 緊急時の対応策 8
 (5) 法規制遵守の状況 8
 (6) グリーン購入 8
 (7) 中期環境目標 9
 (8) 環境会計 10



環境負荷低減の取り組み
 (1) 省エネルギーの取り組み 11
 (2) 温室効果ガスと化学物質の排出抑制 13
 (3) 廃棄物の削減と有効利用 14
 (4) その他の環境負荷低減活動 15



環境コミュニケーション
 (1) 情報開示 17
 (2) 従業員教育 17
 (3) 社会活動 18



環境パフォーマンス
 (1) 伊藤ハムの取り組み実績 19
 (2) 関連会社の取り組み実績 21

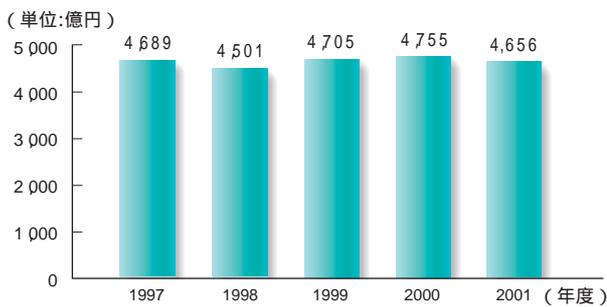
環境保全活動の沿革 22
 環境活動に関するQ&A 22



表紙を飾っているカワセミは、きれいな水に棲む魚をえさとして生きる野鳥です。一時、姿を消しつつありましたが、環境対策が進み、川に魚が帰ってくるにつれて、再び華麗な姿を見せるようになりました。別名「清流を飛ぶ宝石」とも言われています。

会社概要(2002年3月現在)

会社名	伊藤ハム株式会社	従業員数	3,004人
設立	1948年(昭和23年)	主な事業	食肉加工品の製造及び販売
創業	1928年(昭和3年)		食肉の加工及び販売
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号		調理食品、惣菜類の製造及び販売
代表者	代表取締役社長 伊藤 研一		乳製品の製造及び販売
資本金	224億1,500万円		医薬品、医薬部外品の製造及び販売
売上高	4,656億3,900万円(連結)		清涼飲料、酒類の製造及び販売
売上高の推移(連結)			牧場の経営
			外食事業の経営など



- グループ会社
- 伊藤ハムデイリー株式会社
 - 伊藤ハム食品株式会社
 - 伊藤ハム販売株式会社
 - サンキョーミート株式会社 他51社

2002年環境報告書について

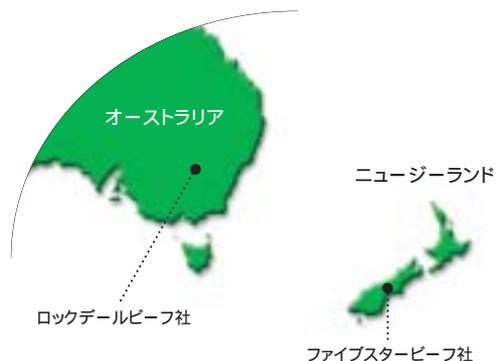
対象期間

2001年4月～2002年3月



対象範囲とISO14001認証取得事業所

事業所	対象範囲	ISO14001 認証取得事業所
伊藤ハム株式会社	九州工場	
	六甲工場	
	西宮工場	
	豊橋工場	
	東京工場	
	北神工場	
伊藤ハムデイリー株式会社	船橋工場	
	東北工場	
伊藤ハム食品株式会社	小樽工場	
伊藤ハム食品株式会社	小矢部工場	
サンキョーミート株式会社	有明ミート工場	
	霧島ミート工場	
	藤栄ファーム事業部	
ロックデールビーフ社	(オーストラリア)	
ファイブスタービーフ社	(ニュージーランド)	



ごあいさつ

21世紀という新たな世紀を迎え、伊藤ハム株式会社は2001年4月から3年間の「グループ中期経営計画」を策定しました。この計画は、グループの企業理念として、企業の使命、経営の姿勢、経営者・従業員の行動規範をうたい、良き企業市民として社会に貢献できる企業活動を目指した新たな企業像を策定したものです。

地球温暖化に代表される環境問題の多くは、「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会に起因し、それは地球規模の問題となっています。

当社は環境問題への取り組みを企業の社会的責任と認識し、環境保全を企業活動の最重要課題の一つとして位置付けています。1999年には「環境基本方針」を定め、環境基本理念と環境行動指針を掲げました。そして、2003年を目標年度とした中期環境目標を設定しました。従業員一人ひとりがさらに環境意識を高め目標に向かい、事業活動における環境負荷の低減に努めていきます。

2001年度は、生産部門において、環境管理の施策として推進している環境マネジメントシステムISO14001認証を、新たに六甲工場、九州工場が取得し、これをもって伊藤ハムのハム・ソーセージの全生産工場が取得を完了しました。さらに、グループのサンキョーミート株式会社が豚の生産農場から食肉処理場までの同時認証を国内で初めて取得しました。

また、主力の西宮工場にガスエンジンによるコージェネシステムを導入し、省エネルギーの推進と温室効果ガスの削減に努めてきました。2002年度はさらに3工場を導入する計画です。

商品の環境負荷低減として、主要商品の包装材に脱塩素系フィルムを使用するとともに、包装材の軽量化に取り組みました。

物流部門では、大気汚染防止策として、営業車輦にクリーンエネルギーの天然ガス車を増車しました。現在、都市部を中心に25台が運行しており、今後も計画的な導入を進めていきます。

また、環境保全活動及び環境経営の効率化を図るツールとして、「環境会計」を導入しました。今後も継続して環境管理の強化につなげていきたいと考えています。

この環境報告書では、2001年度の環境保全とその活動結果をご報告し、皆様との積極的なコミュニケーションを通じて環境対策のレベルアップにつなげ、環境基本理念である「地球環境保全と社会との共生」を図る努力を持続してまいります。

皆様からのご意見・ご感想をいただければ幸いに存じます。

2002年6月



代表取締役社長

伊藤 研一

1

基本方針

伊藤ハムグループは「事業を通じて社会に奉仕する」ことを経営理念として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。一方、地球温暖化に代表される「環境問題」が地球規模の問題となっていることを受け、経営姿勢として地球環境の保全と社会との共生に配慮した事業活動を展開することを宣言しました。1999年に制定した環境基本方針の中で、環境基本理念と環境行動指針を掲げ、グループ全従業員が一丸となった環境活動を実践しています。

経営理念

社 是

「事業を通じて社会に奉仕する」

使 命 (ミ ッ シ ョ ン)

伊藤ハムグループは、真心を込めたサービスと高品質で、お客様の健康と豊かな食文化に貢献します。

経 営 姿 勢

長期的な企業価値の向上を目指し、透明な経営情報を開示します。

お客様が求める「安全・安心」と「品質・鮮度」の高い商品を供給します。

お客様に対する提案力の向上とスピーディーな対応を実践します。

環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践します。

一人ひとりが企業活動を通じ、社会への貢献を認識し、自己実現できる活力ある職場を創ります。

環境基本方針

環 境 基 本 理 念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践していきます。

環 境 行 動 指 針

- 1 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
- 2 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
- 3 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
- 4 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
- 5 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。

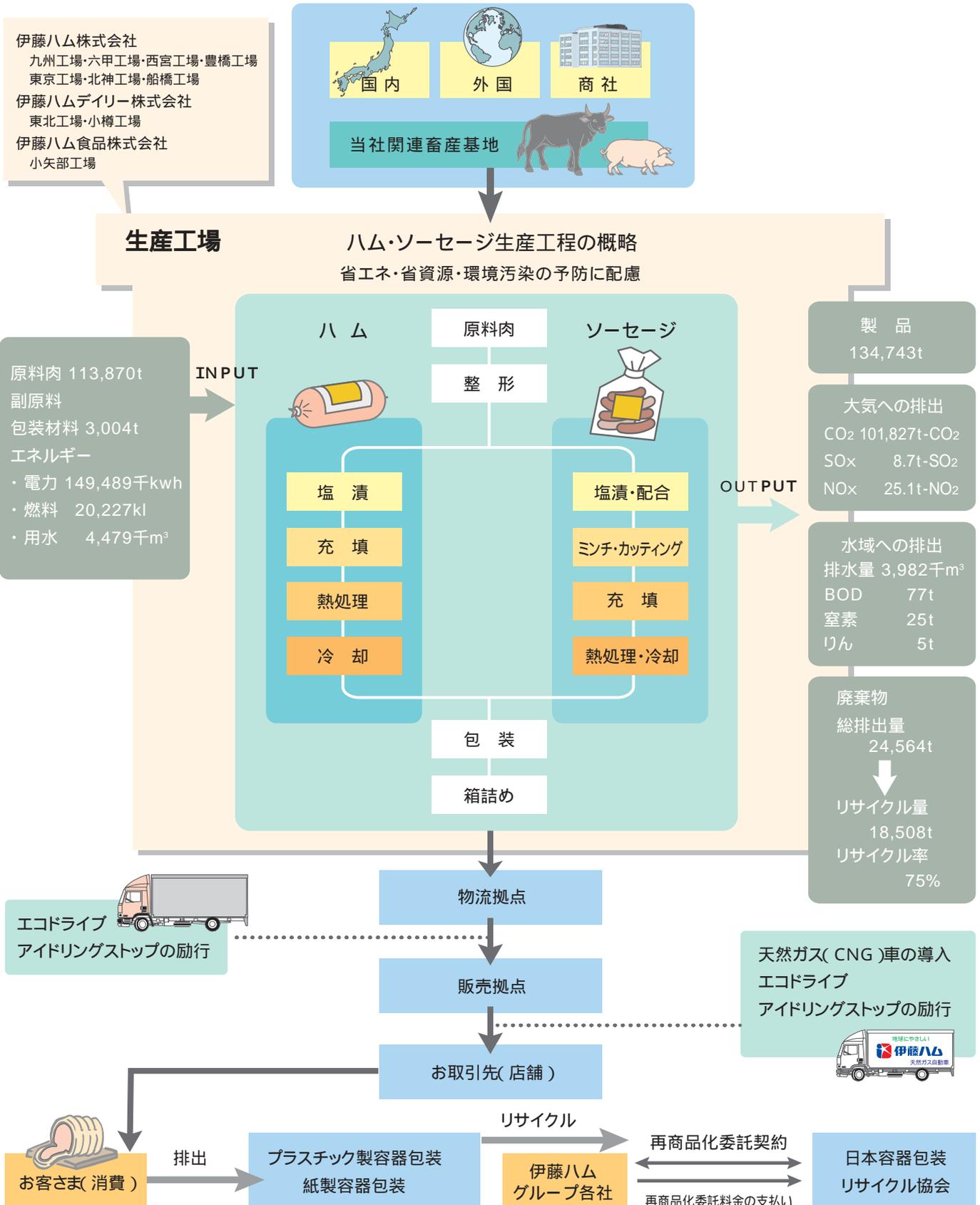
- 6 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
- 7 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
- 8 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、環境報告書により情報開示します。



社員手帳の環境基本方針

2 事業活動と環境負荷

ハム・ソーセージ・調理食品を生産する工場の生産活動において、環境に与える負荷の状況は次のフローチャートの通りです。原料、包装材料、エネルギー等がインプットされ、ハム・ソーセージ等が生産されます。生産の過程で温室効果ガス、廃水、廃棄物がアウトプットされます。また、ハム・ソーセージなどが消費される段階でプラスチック製容器包装・紙製容器包装等がアウトプットされます。



3 2001年度の環境活動ハイライト

2001年度の環境保全活動は、主として、コージェネシステムの導入等による省エネルギーの推進と廃棄物の削減に努めました。また、環境管理体制をさらに充実させるため、ISO認証取得の拡大を図るとともに、環境会計をスタートさせました。

西宮工場コージェネシステムの稼働

2001年7月より西宮工場のコージェネシステムが稼働しました。省エネルギー推進の一環として、エネルギーの有効利用の目的で設置しました。都市ガスを燃料としているため、CO₂排出量も削減できました。

(詳細は12ページ)



コージェネシステムの発電設備(西宮工場)

豊橋工場ボイラー小型化

豊橋工場の7t炉筒煙管式ボイラー1基を廃止し、新たに2t小型貫流ボイラーを3基設置。運転効率の向上により燃料を削減しました。

(8月より稼働)



新設小型貫流ボイラー(豊橋工場)

ISO14001認証取得工場の拡大

2001年度は、六甲工場、九州工場及び関連会社のサンキョーミート(株)がISO14001の認証を取得しました。

これで伊藤ハムのハム・ソーセージ工場(5工場)はすべて取得しました。

(詳細は8ページ)



ISO認証取得の審査(六甲工場)

環境監査の実施

2001年度はグループ14工場の内部監査を実施しました。また、ISO14001認証取得工場(3工場:西宮・東京・豊橋)については、外部監査を受けました。各工場とも問題となる指摘事項はありませんでした。



内部監査(豊橋工場)

環境会計の導入

2001年度より伊藤ハム及びグループ会社を含めた環境会計をスタートさせました。環境保全活動を効果的に進めるための経営管理ツールとして利用していきます。

(詳細は10ページ)



伊藤ハムグループ環境会計集計マニュアル

2001年秋・ビーチクリーンアップ参加

2001年9月30日に行われた環境ボランティアの『2001年秋・国際ビーチクリーンアップin須磨』に、本社及び西宮工場の従業員と家族45名が参加しました。

(詳細は18ページ)

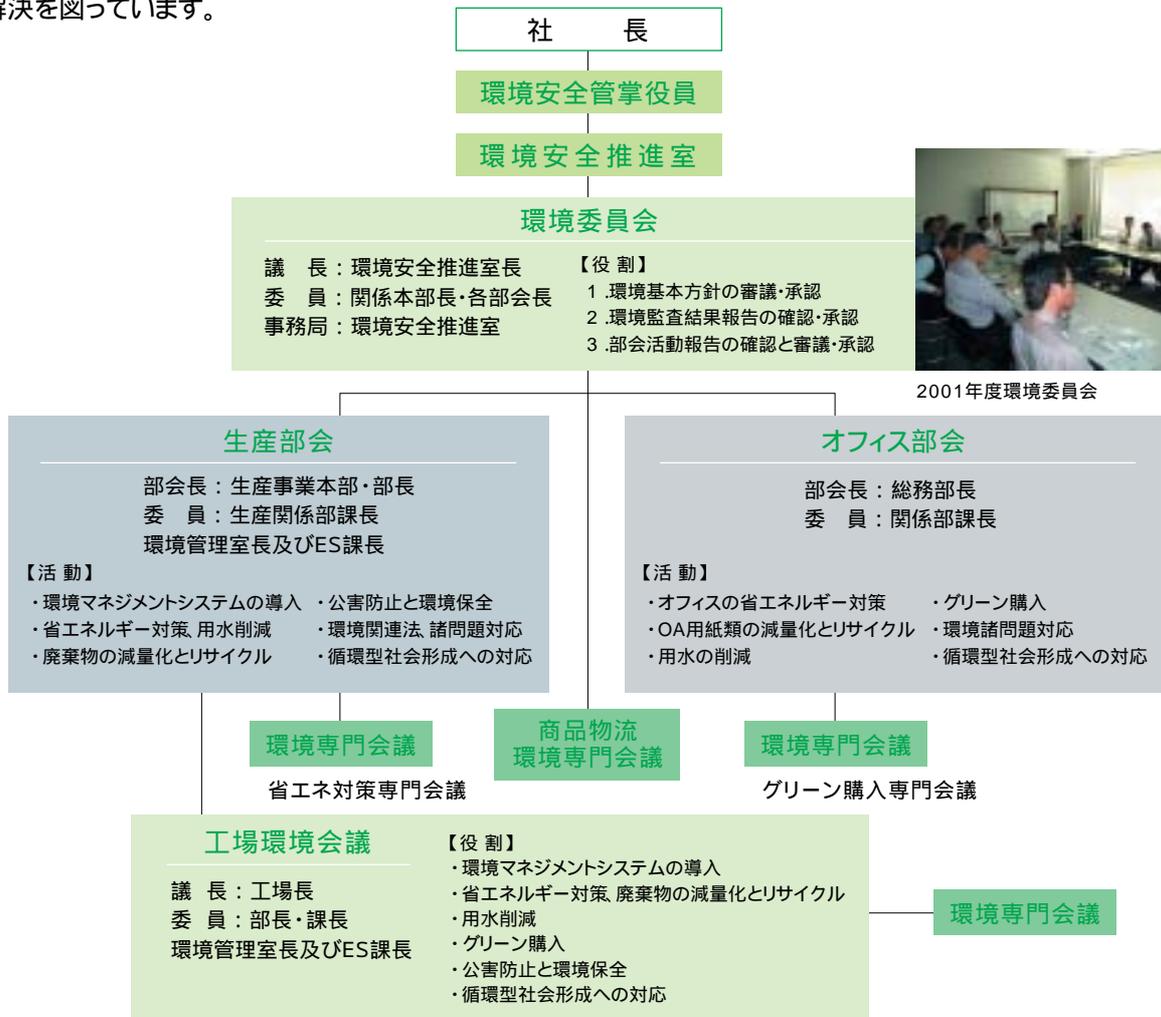


神戸・須磨海岸クリーンアップ後の記念撮影

4 環境マネジメントシステム

(1) 環境活動の推進組織

伊藤ハムグループでは、環境基本方針や環境保全対策などの審議・決定を行う環境委員会を設置しています。環境委員会のメンバーは役員、本部長、部長、部会長で構成されており、その決定事項については、会社組織や生産部会、オフィス部会などを通じて、全事業所に周知徹底を図ります。また、省エネルギー、グリーン購入など、特に重要なテーマについては、部会や専門会議を設置し、継続的に課題の解決を図っています。



(2) 環境監査体制

環境汚染や環境事故の発生を未然に防ぎ、環境リスクの低減を図り、組織的、継続的改善に取り組むため、社内の環境監査の実施基準を設けています。

対象工場

伊藤ハムグループ23工場

監査項目

環境管理、公害防止管理、廃棄物管理、用水管理、
化学物質管理、環境プラント、その他

監査員

本社環境安全推進室及び工場環境管理責任者で「内部環境監査員」の資格者を基本とし、実施員数は3～4人とする。現在、管理・監督者を主体に内部環境監査員が210名います。

2001年度環境監査

内部環境監査は14工場を実施しました。その結果は一部に書類管理等で軽微な不備がありましたが問題となる不適合はありませんでした。外部監査は3工場(西宮工場・東京工場・豊橋工場)が実施され、いずれも問題となる指摘事項はありませんでした。



排水口に設置されたCOD計をチェックする外部監査員(西宮工場)

(3) ISO14001 認証取得の推進

2001年度のISO14001の認証取得については、2001年10月に六甲工場、2002年2月に九州工場、3月にサンキョーミート(株)有明ミート工場、藤栄ファーム事業部が取得しました。なお、北神工場及び船橋工場は2002年度中の認証取得を目指してシステムを構築中です。

伊藤ハムグループのISO14001認証取得工場

認証取得サイト名	登録年月	認証取得サイト名	登録年月
伊藤ハム西宮工場	2000年2月	サンキョーミート 有明ミート工場	2002年3月
東京工場	2000年9月		
豊橋工場	2000年11月	藤栄ファーム事業部	
六甲工場	2001年10月	ロックデールビーフ社	2000年3月
九州工場	2002年2月	ファイブスタービーフ社	2001年1月

(4) 緊急時の対応策

設備トラブル、ヒューマンエラー及び天災(地震・豪雨・台風等)により想定される事故・緊急事態を特定し、それによる環境への重大な影響を防止、または最小限にとどめるため、下記の対策を行っています。

対策

特別管理設備の指定、防護設備の設置、事故時の対応規定及び緊急連絡網の作成、模擬訓練の実施

想定される事故・緊急事態

汚水・汚泥のオーバーフロー、廃油の漏洩、廃水処理用薬品の漏洩、代替フロン(HCFC-22)の漏洩



廃油漏洩想定時の模擬訓練(西宮工場)

(5) 法規制遵守の状況

各事業所においてはその事業活動に課せられる環境保全のための法律はもちろん、地域の公害防止協定、ガイドライン及び自主基準等を遵守し、環境リスクの低減に努めています。また法律の改正等の環境保全に関する情報を常に収集管理し、フィードバックできる体制にしています。

環境に関する苦情・法違反

2001年度の環境に関する苦情は次の通りです。

項目	件数	ご指摘の内容	対応
騒音苦情	1件	冷却水ポンプのベアリングの劣化音について	ただちに新しいベアリングに取換え、劣化音をなくしました。
悪臭苦情	1件	工場周辺での悪臭について	調査の結果、その事実はありませんでした。
法違反	なし		

(6) グリーン購入

伊藤ハムグループはグリーン購入基本方針を制定し、基本原則、推進体制、対象品目、ガイドラインを設け、全社的にグリーン購入に取り組んでいます。2001年度の実績は次の通りです。なお、当社はグリーン購入ネットワークに参加しています。

対象品目	グリーン購入の割合
文具類	筆記具、ファイル等 52.7 (%)
紙類	コピー用紙、コンピュータ用紙、包装紙等 86.7
OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリ等 90.4
照明器具類	ランプ、蛍光灯器具等 50.9
オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブル等 65.2

*文具類、紙類は金額ベース、それ以外は数量ベースで算出しています。



伊藤ハム株式会社は、グリーン購入ネットワークの会員です。

(7) 中期環境目標

1999年の「伊藤ハムグループ環境基本方針」及び「環境行動指針」の策定にともない、「中期環境目標」を設定しました。また、2001年度に策定した「伊藤ハムグループ中期経営計画」の中で、いっそうの環境配慮の経営姿勢が示され、一部目標の見直しを行いました。いま全従業員が一丸となって中期目標の達成に向けて取り組んでいます。

重点課題	中期(2003年度)目標
省エネルギー・省資源	
エネルギー・用水の効率的利用及び、省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> 電力の使用量を生産原単位で5%削減(1999年度比)(生産工場にコージェネシステムの導入) 燃料の使用量を生産原単位で5%削減(1999年度比) 用水の使用量を生産原単位で10%削減(1999年度比)

2001年度の実績(省エネルギー・省資源)

- *2001年度は西宮工場のコージェネシステムが稼動したため、電力原単位が大幅削減され、目標値を達成しました。
- *燃料原単位については、小型ボイラーへの転換等の省エネ対策を行いました。前年よりも増加し1999年度比1.4%の削減にとどまりました。これは西宮工場のコージェネシステムの燃料である都市ガスの増加によるものです。

年度	1999年度比			目標値
	1999	2001	1999年度比	2003
電力原単位(kwh/t)	1,210	1,109	8.3%	1,150 (5%)
燃料原単位(l/t)	152	150	1.4%	144 (5%)
用水原単位(m ³ /t)	35	33	5.5%	31.5 (10%)

環境負荷削減

廃棄物の排出抑制と有効利用	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の排出量を10%削減(1999年度比) 生産工場ゼロエミッションの達成を目指す
温室効果ガス等の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素(CO₂ガス)の排出量を8%削減(1999年度比) 天然ガス車50台導入

2001年度の実績(環境負荷削減)

- *廃棄物の排出量については前年比2.0%削減できましたが、2000年度に生産品目変更により増加したため、1999年度比3.8%の増加となりました。
- *CO₂排出量は年度ごとの省エネ対策により1999年度比2.0%削減しました。
- *天然ガス車は今年度6台導入しトータルで25台保有となりました。
- *サイト別リサイクル率は東京工場ではほぼ100%達成し、他の工場もゼロエミッションに向けて努力しています。

廃棄物及びCO₂の排出量

年度	1999年度比			目標値
	1999	2001	1999年度比	2003
廃棄物(t)	23,658	24,564	3.8%	21,292 (10%)
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	103,862	101,827	2.0%	95,553 (8%)

サイト別リサイクル率(%)

年度	1999	2001	1999年度比	2003
九州工場	70.0	88.0	18.0P	100.0
六甲工場	44.0	79.7	35.7P	100.0
西宮工場	77.5	78.0	0.5P	100.0
豊橋工場	67.4	76.4	9.0P	100.0
東京工場	96.9	99.9	3.0P	100.0

環境マネジメント他

環境管理及び環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 伊藤ハム7工場・伊藤ハムデリー2工場・伊藤ハム食品1工場のISO14001の認証取得を目指す 環境監査の実施 環境関連法規及び社内環境管理基準の継続的遵守 毎年、環境報告書及びホームページ等で環境情報の開示 グリーン購入の推進
----------------------	---

2001年度の実績(環境マネジメント他)

- *ISO14001の認証は2001年度伊藤ハム2工場が取得し、目標の50%を達成しました。
- *「2001年環境報告書」の発行、ホームページ等での情報開示を行いました。

(8)環境会計

環境会計は外部コミュニケーションを図るとともに環境経営の有効なツールであり、2001年度より導入しました。環境保全コスト等の集計は環境省の『環境会計システムの導入のためのガイドライン』にもとづき、『伊藤ハムグループ環境会計集計マニュアル』を作成し、集計しました。マニュアルは定期的に見直しを行い、環境経営のツールとしての有効性を高めていきます。

集計方法

投資額は環境保全目的100%のもの及び生産設備に付随したものを含めて集計しました。

コージェネシステムは100%計上しました。

減価償却費は環境保全目的100%のもののみ集計し、財務会計上の金額としました。

2002年度の環境会計より生産設備に付随したものも含める予定です。

環境保全効果及び経済効果についてはその効果の総量(総金額)と原単位調整量(金額)の両方で集計しました。

公表用フォーマットは『環境会計ガイドライン2002年版』を用いました。

2001年度集計結果

集計期間：2001年4月～2002年3月

集計範囲：伊藤ハム株式会社(九州工場・六甲工場・西宮工場・豊橋工場・東京工場・北神工場・船橋工場)/
伊藤ハムデイリー株式会社(東北工場・小樽工場)/伊藤ハム食品株式会社(小矢部工場)

環境保全コスト(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		501,627	1,025,062
公害防止コスト	・ 廃水処理施設の設置、改修及び維持管理 ・ 大気汚染防止、悪臭防止及び騒音防止対策	269,381	566,669
地球環境保全コスト	・ コージェネシステムの設置その他省エネ対策	213,521	79,215
資源循環コスト	・ 廃棄物のリサイクル及び処理・処分費用	18,725	379,178
上・下流コスト	・ 容器包装の再商品化委託料	0	61,608
環境活動コスト	・ ISO認証取得及び、サーベイランス費用 ・ 社員教育他	0	71,897
研究開発コスト		0	0
社会活動コスト	・ 工場緑化他 ・ 環境広告コスト	0	22,769
環境損傷対応コスト		0	0
合計		501,627	1,181,336

環境保全効果

効果の内容	指標の分類	環境保全効果を表す指標		
		指標の値		
		総量	原単位調整量	
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入(kl)	1,384	2,546
		用水の投入(km ³)	109	196
	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ の排出(t)	1,388	3,349
		廃棄物の排出(t)	514	990

*指標の値 総量：前期に対する削減量【前期投入量(排出量)-当期投入量(排出量)】

原単位調整量：生産原単位を加味した削減量【前期投入量(排出量)×(当期生産量/前期生産量)-当期投入量(排出量)】

*エネルギーの投入量は電力と燃料を原油換算した値(kl)

環境保全対策に伴う経済効果

効果の内容	金額(千円)		
	総金額	原単位調整金額	
収益	3,479		
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力+燃料)	46,093	101,615
	用水削減による経費削減	13,097	20,328
	廃棄物処理費の削減	16,097	22,541

*原単位調整金額：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量/前期生産量)-当期費用】

5

環境負荷低減の取り組み

(1) 省エネルギーの取り組み

省エネルギーについては、中期目標に向けて、電力及び燃料の生産原単位の削減に取り組んでいます。また、その推進体制を強化するため、生産部会の中に省エネ対策専門会議を設置しました。

電力使用量の削減

2001年度は「給水ポンプ」「冷媒のブラインポンプ」「冷却水ポンプ」などをインバーター制御に変更したり、圧縮空気配管を集約して空気漏洩防止等の電力削減対策を実施しました。

2001年度の電力原単位は1999年度比で8.3%削減となりました。

燃料使用量の削減

大型ボイラーからエネルギー効率の良い小型ボイラーへの転換を継続して進めるとともに、蒸気ドレンの廃熱回収や、生産機器の熱効率の向上に努めています。

2001年度の燃料原単位は1999年度比で1.4%削減となりました。

用水使用量の削減

生産工程内での無駄をなくすと同時に、廃水処理設備で浄化された水を工場緑地の灌漑用水として再利用しています。

2001年度の用水原単位は1999年度比で5.5%削減となりました。



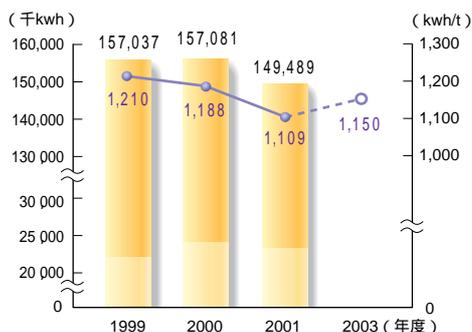
冷却水用インバーター（西宮工場）

エネルギー使用量の推移

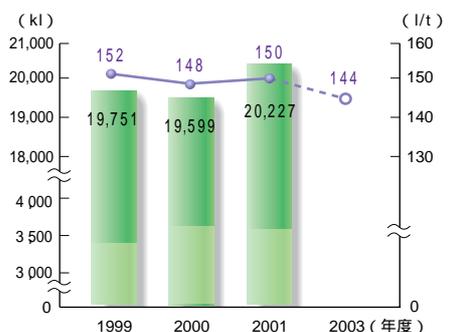
	年度	伊藤ハム				関連会社				合計						
		1999	2000	2001	1999年度比	1999	2000	2001	1999年度比	1999	2000	2001	1999年度比			
電力	総量(千kwh)	135,090	133,061	126,179	8,911	6.6%	21,947	24,020	23,310	1,363	6.2%	157,037	157,081	149,489	7,548	4.8%
	原単位(kwh/t)	1,197	1,152	1,070	127	10.6%	1,298	1,422	1,382	84	6.5%	1,210	1,188	1,109	100	8.3%
燃料*1	総量(kl)	16,333	15,968	16,631	298	1.8%	3,418	3,630	3,596	178	5.2%	19,751	19,599	20,227	476	2.4%
	原単位(l/t)	145	138	141	4	2.8%	202	215	213	11	5.4%	152	148	150	2	1.4%
用水	総量(千m³)	3,854	3,823	3,762	92	2.4%	711	765	717	6	0.8%	4,565	4,588	4,479	86	1.9%
	原単位(m³/t)	34	33	32	2	5.9%	42	45	42	0	0.0%	35	35	33	2	5.5%

*1：原油換算

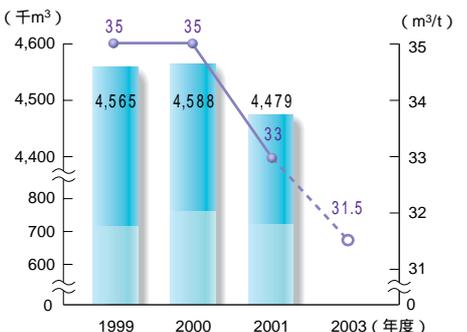
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の推移



総量 (千kwh) 伊藤ハム 原単位 (合計数値)
(千kwh) 関連会社 (kwh/t)

総量 (kl) 伊藤ハム 原単位 (合計数値)
(kl) 関連会社 (l/t)

総量 (千m³) 伊藤ハム 原単位 (合計数値)
(千m³) 関連会社 (m³/t)

コージェネシステムの稼働

省エネルギー推進の中期目標の大きな柱である生産工場のコージェネシステム導入として、2001年7月より西宮工場のコージェネシステムが稼働しました。2002年度はさらに3工場の導入を計画しています。

西宮工場のコージェネシステムとその効果

この設備は都市ガス(天然ガス)を燃料とする高効率のガスエンジン発電機です。発電効率は38%で、エンジン排気ガスや冷却水の廃熱を排ガスボイラと熱交換器を用いて回収し、生産工程で使用する蒸気や温水として利用しています。廃熱を有効利用することによって総合効率は79%に達する高効率の設備となりました。

エネルギーの有効利用と同時に、天然ガスを燃料としたために、導入後の排出二酸化炭素が293t-CO₂*の削減となりました。(*2001年7月~2002年3月)

コージェネシステムの稼働状況(2001年7月~2002年3月)

発電電力量(千kwh)	4,698
ガス使用量(千m ³)	1,062
エネルギー効率(%)	79

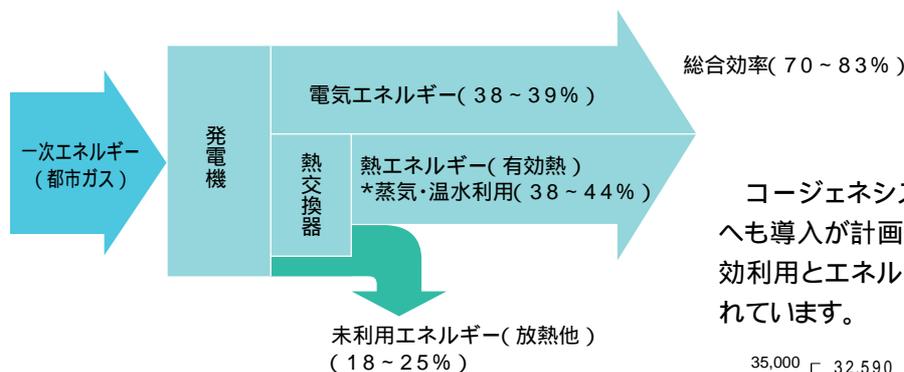


高効率ガスエンジン発電機



エンジンの廃熱を回収する排ガスボイラ

システムのエネルギー効率

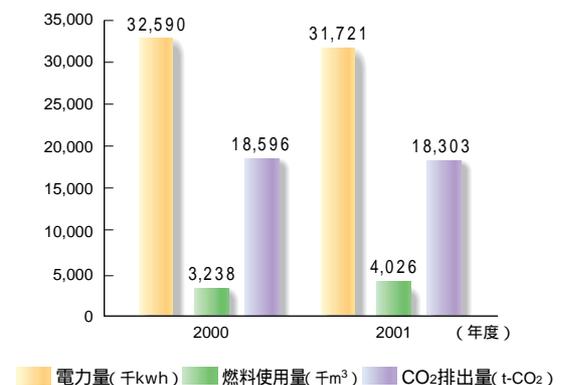


西宮工場の電力量・燃料使用量(都市ガス)・CO₂排出量

	電力量(千kwh)	燃料使用量(千m ³)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
2000年度	32,590	3,238	18,596
2001年度	31,721	4,026	18,303

2001年度の電力量は買電と発電の合計値。

コージェネシステムは他の主要生産工場へも導入が計画されており、エネルギーの有効利用とエネルギー使用量の削減が期待されています。



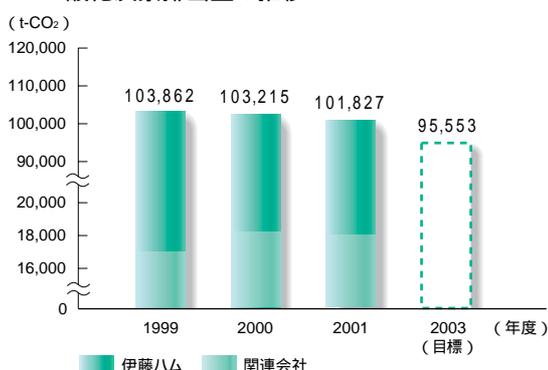
(2) 温室効果ガスと化学物質の排出抑制

温室効果ガスの削減については、エネルギーの有効利用による省エネルギーを推進し、CO₂の発生抑制に努めています。また、冷凍や冷蔵設備、空調設備に使用されている代替フロン(HCFC-22)の設備からの漏洩を防止するため、管理を徹底し、オゾン層を破壊しないアンモニア冷媒の冷凍設備も導入しています。

二酸化炭素(CO₂)の排出抑制

二酸化炭素削減の中期目標を設定し、削減に取り組んでいます。2001年度は1999年度比で2,035トン(2.0%)の削減となりました。

二酸化炭素排出量の推移



化学物質の保有と排出量

PRTR法に指定された該当化学物質は、代替フロン(HCFC-22)、ハロン1301(消火設備)、PCB(使用済みコンデンサ)、ナイブライン(冷蔵設備)などがありますが、ハロン1301、PCB、ナイブラインの排出はありませんでした。代替フロン(HCFC-22)の排出量は次の通りです。



アンモニア冷媒の冷凍設備(九州工場)

代替フロン(HCFC-22)排出量の推移(単位:kg)

年度	1999	2000	2001
HCFC-22	8,420	9,608	8,809

二酸化炭素排出量の推移(t-CO₂)

年度	伊藤ハム					関連会社					合計					
	1999	2000	2001	1999年度比	1999	2000	2001	1999年度比	1999	2000	2001	1999年度比				
エネルギー	電力	48,227	47,503	45,046	3,181	6.6%	7,835	8,575	8,322	487	6.2%	56,062	56,078	53,368	2,694	4.8%
	都市ガス	18,463	18,667	20,206	1,743	9.4%						18,463	18,667	20,206	1,743	9.4%
	LPガス	8,210	8,061	7,913	297	3.6%	1,191	1,317	1,398	207	17.4%	9,401	9,378	9,311	90	1.0%
	重油	7,116	5,983	5,640	1,476	20.7%	7,916	8,340	8,177	261	3.3%	15,032	14,323	13,817	1,215	8.1%
	灯油	8	6	9	1	12.5%	51	59	33	18	35.3%	59	65	42	17	28.8%
	蒸気(購入分)	4,845	4,704	5,083	238	4.9%						4,845	4,704	5,083	238	4.9%
合計	86,869	84,924	83,897	2,972	3.4%	16,993	18,291	17,930	937	5.5%	103,862	103,215	101,827	2,035	2.0%	

エネルギーのCO₂排出係数は環境省の『温室効果ガス排出量算定方法に関する検討結果(平成12年9月)』を採用しました。

大気汚染物質の排出削減

燃焼設備から発生するSO_x、NO_x、ばいじんなどの大気汚染物質については法律により規制されていますが、生産工場ごとに自主基準を設け、発生抑制に取り組んでいます。

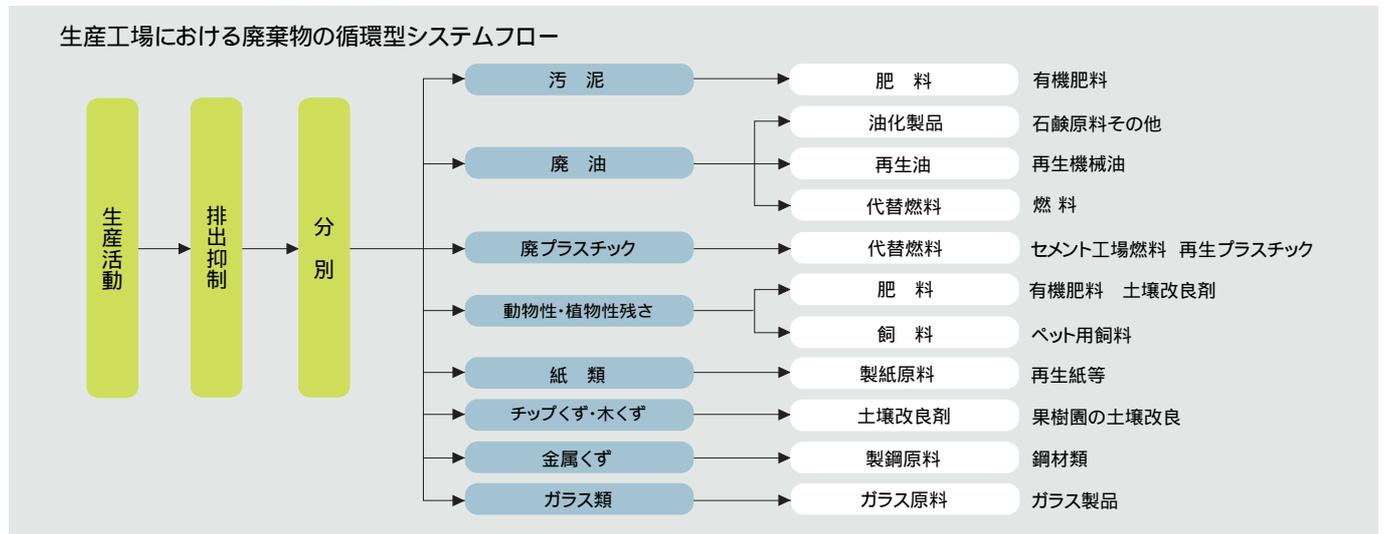
法規制のされていない生産設備(燃焼を伴う設備)についても排気ガス対策を実施し、環境の保全に努めています。



ガス式消煙装置(西宮工場)

(3) 廃棄物の削減と有効利用

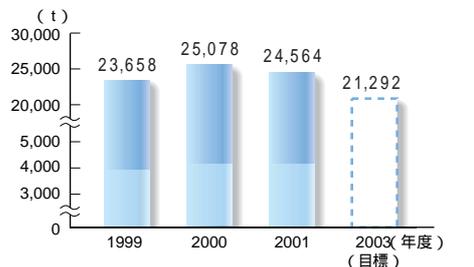
事業活動で発生する廃棄物の排出量を抑制するために全部門で削減に取り組んでいます。生産工場では、部門ごとに目標を定め、廃棄物の種類や量を把握し、常時チェックをしながら進めています。



廃棄物発生の抑制

生産工程の歩留まり向上や、資材の軽量化、リサイクルの容易な材質への転換など発生の抑制に努め、2001年度の排出量は24,564トンで、前年比514トン(2.0%)を削減できましたが1999年度比906トン(3.8%)の増加になり改善の余地を残しました。

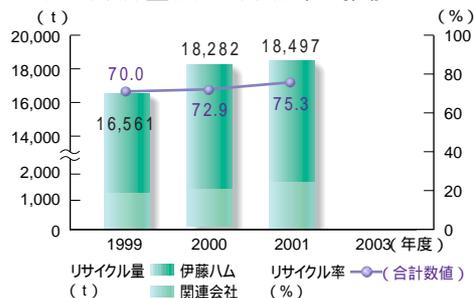
廃棄物排出量の推移



廃棄物の有効利用

発生の抑制と同時に分別を徹底しリサイクルを進めています。生産工場では2003年度リサイクル率100%達成を目標に取り組んでおり、2001年度のリサイクル率は75.3%で1999年度比5.3ポイント上昇しました。

リサイクル量とリサイクル率の推移



西宮工場 環境管理室長 横山 重夫

生産工程やオフィス部門から排出された廃棄物は、廃棄物計量システムを導入し徹底した分別を行い、リサイクルを推進しています。廃棄物は排出元で分別されて、それぞれ計量したあと保管場所に集積され、排出量や分別の状態などのデータを部門ごとに集計し、フィードバックして注意を促しています。全従業員が排出の状態を認識することが廃棄物の削減やリサイクル率の向上につながります。

排出量とリサイクル率の推移(単位:t)

	伊藤ハム						関連会社						合計					
	1999年度		2000年度		2001年度		1999年度		2000年度		2001年度		1999年度		2000年度		2001年度	
	排出量	リサイクル率																
汚泥	9,802	97.3%	10,986	93.8%	10,482	96.5%	1,768	0.0%	1,900	0.0%	1,853	0.7%	11,570	82.4%	12,886	80.0%	12,335	82.1%
廃プラスチック	3,107	31.0%	2,570	40.1%	2,572	47.8%	544	0.0%	598	0.0%	510	9.2%	3,651	26.4%	3,168	32.5%	3,082	41.4%
動植物性残さ	2,318	28.1%	2,743	42.9%	2,823	41.1%	623	61.1%	620	68.3%	647	85.5%	2,941	35.1%	3,364	47.6%	3,470	49.4%
金属くず	407	75.4%	454	93.8%	404	95.5%	85	96.0%	74	98.1%	81	99.9%	492	79.0%	527	94.4%	485	96.2%
ガラス類	24	50.0%	28	28.6%	30	34.2%	0.5	0.0%	0.4	0.0%	0.3	6.1%	25	49.0%	29	28.2%	31	33.9%
古紙類(OA用紙等)	295	40.7%	209	59.3%	216	58.4%	34	12.1%	37	12.7%	41	23.5%	329	37.7%	246	52.3%	257	52.9%
廃ダンボール類	3,347	99.6%	3,405	100.0%	3,308	100.0%	399	100.0%	404	100.0%	419	100.0%	3,746	99.6%	3,809	100.0%	3,726	100.0%
廃油	409	99.3%	414	99.5%	462	99.9%	363	100.0%	475	100.0%	552	100.0%	772	99.6%	888	99.8%	1,014	99.9%
チップくず	100	0.0%	122	16.4%	132	29.4%	32	0.0%	39	0.0%	34	0.0%	132	0.0%	161	12.4%	165	23.4%
合計	19,809	77.4%	20,931	80.8%	20,428	82.4%	3,849	33.0%	4,148	33.2%	4,137	40.5%	23,658	70.0%	25,078	72.9%	24,564	75.3%

(4)その他の環境負荷低減活動

生産工場での公害防止、オフィスでのペーパーレス化及び営業車輛に天然ガス車導入など、事業活動に伴うその他の環境負荷削減にも取り組んでいます。

廃水処理設備の処理能力を増強

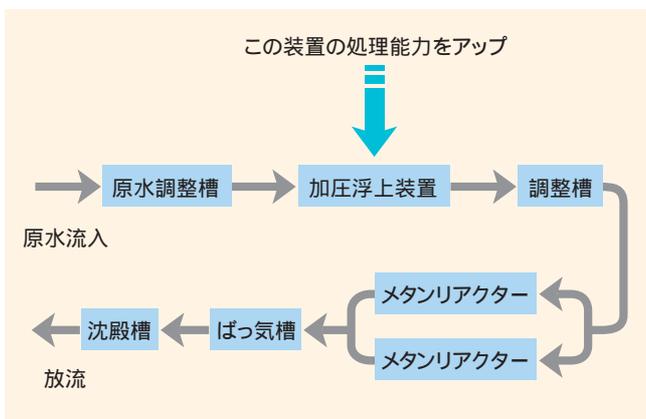
*北神工場では廃水を浮上分離装置で浄化して公共下水道に流していましたが、放流水質をさらに改善するため活性汚泥装置を新設しました。

*九州工場では廃水処理装置をより安定的に稼働させ、水域への放流水質を向上させるために前処理設備を改修し、能力を増強しました。



新設活性汚泥装置(北神工場)

九州工場廃水処理装置フローチャート



防臭対策のため屋内に新たに設置された前処理装置(九州工場)

廃水処理設備の防臭対策

廃水処理設備には脱臭設備を設置しています。臭気の発生する主要な設備には、臭気を吸引するファンが設置されています。吸引した臭気は脱臭装置に集められ、酸・アルカリの薬品で洗浄され無臭となります。



臭気洗浄装置(西宮工場)

公害防止管理

生産工場では、法令や条例等で定められた規制値よりも厳しい「自主基準値」を定め、環境管理の強化と公害防止管理を徹底しています。

- 【主な自主基準】
- 1)大気汚染防止法の排ガス
 - 2)水質汚濁防止法の排水
 - 3)騒音規制法の騒音

オフィス関係

オフィスにおける廃棄物の削減については、IT推進担当者を配置して、ペーパーレス化を推進するとともに、紙類、プラ類、金属類、ガラス等の分別箱を設置して、リサイクルを徹底しています。また、オフィス内の空調は、季節温度基準を設定。不使用時の消灯やOA機器等の省エネモードの活用など、省エネルギーを推進しています。気温が高くなる夏季には、温度基準の遵守徹底と軽装奨励(男性はノーネクタイ・女性は私服)などの活動を中心とした「エコスタイル・キャンペーン」を展開しています。



本社事務所に設置された紙類分別回収BOX



本社食堂の自動販売機コーナーに設置された紙コップ・PET分別BOX

営業関係

1998年度より 営業車輛に業界初の天然ガス車(CNG車)を導入しました。2001年度は6台を導入し 合計25台を保有しています。さらに、伊藤ハムグループ全体で「アイドリングストップ運動」を実施しています。



天然ガス(CNG)車



営業車輛に表示している
アイドリングストップシール

商品の環境負荷低減

商品については、主として、商品の包装材の減量、有害物質の除去などの環境負荷低減に取り組んでいます。

さわやかパックシリーズ包装材の減量

スライスパックの主力商品「さわやかパックシリーズ」の包装材については、すでに脱塩素系フィルムを使用していますが、当期はさらに軽量化を実施しました。トレイパックの底材の厚みを減らすことにより、包装材トータルで約7%減量。商品使用時の環境負荷を低減しました。



環境にやさしい天然ガス車(CNG)

CNG車とは、圧縮天然ガス(Compressed Natural Gas)を燃料とした低公害の自動車のことです。二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化や、NOx(窒素酸化物)などによる大気汚染がますます深刻化しており、環境改善が大きな課題となっています。天然ガス車は ガソリンや軽油など石油系の燃料に比べると二酸化炭素や窒素酸化物の発生が少なく、SOx(硫黄酸化物)を発生しない低公害車です。

トレイパック材質の変更テストを実施

トレイパックの底材の材質を、発泡スチロールからダンボールに変更するための試験を実施しました。現状では焼却処分されている発泡スチロールをダンボールに変更することにより、リサイクルが可能となるからです。

包装材の識別・材質表示の実施

資源有効利用促進法の施行により、2001年4月から、新たに紙製容器包装、プラスチック製容器包装の識別表示が義務づけられ、これに準じて、当社においても識別・材質表示を実施しています。



PET, PE

識別・材質表示の例

開封後は早目にお召し上がりください。
※包材には塩素系フィルムを使用しておりません。なお捨てる時は、お住まいの自治体の指示にしたがってください。
◎製品についてお気づきの点がございましたらご連絡ください。
お客様相談室 ☎0120-011186



PET, PE

6 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループは、社内外からの情報受信、社内外への情報発信、情報開示など、従業員や社外のお客様との双方向のコミュニケーションが地球環境問題への取り組みに不可欠であると考え、次のような活動を実施しています。

(1) 情報開示

社内報や社内イントラネットなどにより、社内での情報共有化を図る一方、社外のお客様とのコミュニケーションを大切に考え、環境報告書の発行やホームページの活用などにより、環境に関する情報開示を積極的に実施しています。

環境報告書の発行

伊藤ハムグループの中期経営計画に基づいた「中期目標」による重点課題・目標にもとづき、全従業員による自主的・継続的な取り組みを進めています。1999年度からは、各部門が1年間取り組んできた活動成果を「環境報告書」としてまとめ、毎年発行しています。また、ホームページ*においても環境報告書を開示しています。

*<http://www.itoham.co.jp>



過去2年の環境報告書(左は2000年版、右は2001年版)

環境情報の開示及び共有化

社内イントラネットにより環境に関する情報・データを開示・共有化しています。環境に関する情報・データを共有することで、従業員の環境意識の向上、環境保全活動の推進に役立っています。



社内イントラネットの画面

(2) 従業員教育

従業員の環境基本方針の理解と、公私を通じての環境保全への取り組み意識を向上させるため、社内外の環境教育及び環境に関する社内広報活動を実施しています。

新入社員の環境教育

環境マネジメントシステム教育

各工場における専門教育

社内報「躍動」に環境関係記事を毎月掲載

各職場に環境情報掲示板「環境活動ボード」を設置



新入社員教育(東京工場)



環境活動ボード(六甲工場)

社内報「躍動」の表紙と環境関係のページ

(3) 社会活動

経営理念および環境基本理念に「地球環境の保全と社会との共生」をうたっており、社会活動への参加と環境関連団体とのコミュニケーションを積極的に実施しています。

国際ビーチクリーンアップ

クリーンアップ関西事務局の主催(国連環境計画公認)で毎年2回(春・秋)開催されるクリーンアップキャンペーンに協賛し、従業員が参加しています。

2001年9月30日に須磨海岸(兵庫県神戸市)で開催されたクリーンアップキャンペーンに、本社及び西宮工場の従業員と家族45名が参加。海水浴や漂流物などで汚れた浜辺の清掃を行いました。特に多かったのが、タバコのフィルター、プラスチックの破片、花火の燃えガラなどです。



神戸・須磨海岸クリーンアップ活動中



参加者の声
経理部
経理企画チーム
松原 慎一郎

ボランティア活動は阪神大震災以来です。今回「クリーンアップ in 須磨」に参加しましたが、あいにくの雨で思うような活動(ゴミ拾い)ができなかったのが残念です。

砂浜に立つと、父に聞いたり写真で見た海岸とは雲泥の差があり、もう昔のキレイな砂浜には戻らないのかと不安に思いました。戦後、私たちの生活は豊かになりましたが、自然を壊し汚し続けていて、本当に豊かといえるでしょうか。今回の活動を通して今の日本の現状を見たような気がします。

この現状は、須磨海岸を訪れる人だけの問題ではなく、行政をまきこんだ全体的な取り組みを必要としています。私自身、これからも改善努力を続けていきたいと思っています。

工場周辺の清掃活動

各工場では、工場周辺の道路等の清掃を定期的に行っています。これは事業活動を行ううえでの社会的責任と考え、今後も継続していきます。



工場周辺の環境美化活動(六甲工場)

環境関連団体の参加

地域に密着した環境保全活動を推進し、環境コミュニケーションを円滑にするため、各地域の環境関連団体に参加しています。

グリーン購入ネットワーク(GPN)
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
クリーンアップ関西事務局
瀬戸内海環境保全連絡会
各地方の農林関連企業環境対策協議会
各県、市の環境保全協議会
省エネルギーセンター

その他の環境関連団体に参加しています。



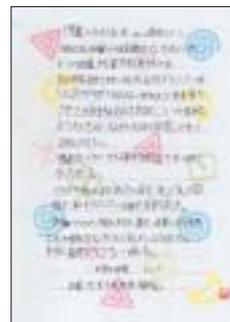
クリーンアップ関西事務局のホームページ
(<http://www.page.sannet.ne.jp/kfuru/>)

ボランティア休暇制度の導入

従業員の社会貢献活動を支援するため、ボランティア休暇制度を導入しました。

近隣小学生への工場紹介(東京工場)

食品工場が環境保全に対してどのような取り組みを行っているか、近隣の小学生を迎えて勉強会を行い、地域とのコミュニケーションを深めています。



小学生の代表から寄せられた礼状

7 環境パフォーマンス

(1) 伊藤ハムの取り組み実績

九州工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,239	1,232	0.6
燃料(l/t)	223	224	0.2
用水(m ³ /t)	52	53	3.3
CO ₂ (kg/t)	976	959	1.7

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	3,487	3,632	4.2
リサイクル率(%)	73.4	88.0	14.6P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.5	8.1	7.8	
BOD(mg/L)	30	25	3.3		2.0
SS(mg/L)	25	20	16.0		6.4

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	2.69			
NOx(ppm)	A(2基)	150	130	123	115
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.1	0.01	0.001	0.001

西宮工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,271	1,056	17.0
燃料(l/t)	150	187	24.5
用水(m ³ /t)	29	30	0.6
CO ₂ (kg/t)	725	715	1.4

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	5,298	4,582	13.5
リサイクル率(%)	79.6	78.0	1.6P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.5~8.5	7.5	6.8	
BOD(mg/L)	30(20)	15	12.0		4.2
SS(mg/L)	30(20)	20	4.0		2.2

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(t/y)	A&B(14基)	1.3			
NOx(ppm)	A(12基)	75	65	52.4	43.1
	B(2基)			58.5	48.4
ばいじん(g/Nm ³)	A(12基)		0.02	0.005	0.0034
	B(2基)		0.02	0.001	0.001

六甲工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,665	1,669	0.2
燃料(l/t)	141	144	2.2
用水(m ³ /t)	25	26	3.9
CO ₂ (kg/t)	849	856	0.8

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	665	690	3.8
リサイクル率(%)	78.8	79.7	0.9P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.4	7.0	
BOD(mg/L)	200	180	150.0		49.5
SS(mg/L)	100	90	64.0		22.1

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(K値)	A(4基)	1.17			
NOx(ppm)	A(4基)		40	34	28.5
ばいじん(g/Nm ³)	A(4基)		0.02	0.002	

TOPICS

工場敷地内には緑地帯が設けられています。これは西宮工場の建物周辺の緑地帯で、芝生には散水設備を設置し、廃水処理施設で浄化された水を再利用しています。



豊橋工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,449	1,415	2.3
燃料(l/t)	168	159	5.3
用水(m ³ /t)	48	47	1.0
CO ₂ (kg/t)	975	939	3.8

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	2,408	2,479	2.9
リサイクル率(%)	73.0	76.4	3.4P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.5~8.5	7.9	7.4	
BOD(mg/L)	120(100)	60	23.0		6.3
SS(mg/L)	160(120)	60	7.0		3.8

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(7基)	2.2	1.0	0.056	0.052
NOx(ppm)	A(7基)		180	110	96.1
ばいじん(g/Nm ³)	A(7基)		0.1	0.0036	0.002

北神工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	545	463	15.0
燃料(l/t)	78	67	15.0
用水(m ³ /t)	11	9	18.2
CO ₂ (kg/t)	337	286	15.0

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	1,490	1,400	6.1
リサイクル率(%)	76.5	73.7	2.8P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.7~8.7	7.4	5.9	
BOD(mg/L)	300	200	250		95.0
SS(mg/L)	300	200	180		84.5

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(K値)	A(3基)	1.17			
NOx(ppm)	A(3基)		60	42.0	30.3
ばいじん(g/Nm ³)	A(3基)		0.05	0.0027	0.0026

東京工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	973	976	0.3
燃料(l/t)	137	135	0.8
用水(m ³ /t)	34	34	0.8
CO ₂ (kg/t)	594	593	0.0

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	5,829	5,593	4.1
リサイクル率(%)	99.9	99.9	0.0P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.8	7.5	
BOD(mg/L)	10	8	5.2		2.2
SS(mg/L)	20	10	15.0		7.3

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(3基)	0.025			
	B(8基)	0.272			
NOx(ppm)	A(3基)	150	120	96	64.3
	B(8基)	150	120	84	40.2
ばいじん(g/Nm ³)	A(3基)	0.1	0.08	0.0036	0.0022
	B(8基)	0.1	0.08	0.0043	0.0023

船橋工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,510	1,499	5.8
燃料(l/t)	66	65	2.4
用水(m ³ /t)	37	34	8.0
CO ₂ (kg/t)	1,142	1,169	2.4

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	1,752	2,051	17.1
リサイクル率(%)	50.0	48.6	1.4P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.0	6.0	
BOD(mg/L)	350	300	220		123
SS(mg/L)	300	100	120		96.8

注釈

*エネルギー及び廃棄物の数値は四捨五入しているため、実数値と増減のパーセントは合わない場合があります。

注釈 (排水の水質関係目標達成状況について)

*()数値は日間平均値。

注釈 (大気関係の目標達成状況について)

*施設名A・Bは同規模(同程度も含む)のものを区分。

*九州工場、六甲工場、西宮工場、東京工場、北神工場のSOxについては都市ガスもしくはLPガス使用のため測定実績なし。

*六甲工場、西宮工場、豊橋工場、北神工場は小型ボイラーでかつ軽質液体燃料もしくは都市ガス使用のため、ばいじん、NOxの規制なし。

(2) 関連会社の取り組み実績

伊藤ハムデイリー株式会社 東北工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,610	1,549	3.8
燃料(l/t)	248	243	1.9
用水(m ³ /t)	51	47	7.6
CO ₂ (kg/t)	1,237	1,201	2.9

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	3,743	3,681	1.7
リサイクル率(%)	33.0	38.7	5.7P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8 ~ 8.6	6.5 ~ 8.0	8.0	7.5	
BOD(mg/L)	160(120)	80	45.0		2.1
SS(mg/L)	200(150)	150	21.0		9.8

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	0.98	0.5	0.057	0.053
	B(1基)	8.6	0.5	0.11	0.095
NOx(ppm)	A(5基)	180	180	130	114.5
	B(1基)	250	180	100	99
ばいじん(g/Nm ³)	A(5基)	0.3	0.15	0.007	0.006
	B(1基)	0.3	0.15	0.01	0.01

伊藤ハム食品株式会社 小矢部工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,081	1,122	3.9
燃料(l/t)	150	154	2.4
用水(m ³ /t)	35	35	1.0
CO ₂ (kg/t)	793	817	3.0

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	225	221	1.6
リサイクル率(%)	35.7	36.5	0.8P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0 ~ 8.0	6.0 ~ 8.0	7.4	6.9	
BOD(mg/L)	30(20)	20	2.9		1.5
SS(mg/L)	60(40)	20	9.0		3.1

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	2.2	1	0.057	0.041
	B(1基)	1.3	1	0.041	0.035
NOx(ppm)	A(2基)		150	130	96.8
	B(1基)		150	110	70.5
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.2	0.1	0.02	0.02
	B(1基)	0.2	0.1	0.02	0.015

注釈

*エネルギー及び廃棄物の数値は四捨五入しているため、実数値と増減のパーセントは合わない場合があります。

注釈 (排水の水質関係目標達成状況について)

*()数値は日間平均値。

注釈 (大気関係の目標達成について)

*施設名A・Bは同規模(同程度も含む)のものを区分。

*小矢部工場、小樽工場、有明ミート工場については、小型ボイラーでかつ軽質液体燃料を使用のため、NOxの規制基準なし。

伊藤ハムデイリー株式会社 小樽工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	789	775	1.9
燃料(l/t)	110	119	8.5
用水(m ³ /t)	26	26	1.3
CO ₂ (kg/t)	580	601	3.5

2 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	増減(%)
排出量(t)	179	233	30.1
リサイクル率(%)	36.1	72.0	35.9P

3 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7 ~ 8.7	6.5 ~ 8.5	8.3	7.4	
BOD(mg/L)	300	200	53.0		24.9
SS(mg/L)	300	200	81.0		31.6

4. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	0.66	0.3	0.024	
NOx(ppm)	A(2基)		120	107	86
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.4	0.1	0.01未満	

サンキョーミート株式会社 有明ミート工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	280	300	7.1
燃料(l/t)	21	23	9.5
用水(m ³ /t)	18	19	5.6
CO ₂ (kg/t)	158	172	8.7

2 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8 ~ 8.6	6.0 ~ 8.0	7.6	7.3	
BOD(mg/L)	30	20	5.0		2.2
SS(mg/L)	40	20	4.0未満		

3. 大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	1.8 ~ 0.48	0.4	0.17	0.083
NOx(ppm)	A(5基)		80	60	53.5
ばいじん(g/Nm ³)	A(5基)	0.3	0.2	0.0053	0.0032

サンキョーミート株式会社 霧島ミート工場

1 エネルギー使用量とCO₂排出量(生産原単位)

	2000年度	2001年度	増減(%)
電力(kwh/t)	153	210	37.3
燃料(l/t)	6	10	66.7
用水(m ³ /t)	3	4	33.3
CO ₂ (kg/t)	98	108	10.7

2 排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8 ~ 8.6	5.8 ~ 8.6	7.4	7.2	
BOD(mg/L)	160	30	17.0		7.2
SS(mg/L)	200(150)	20	11.0		3.4

環境保全活動の沿革

年 月	当社の主な取り組み内容	日本の主な動き
1965年	・廃水処理設備の導入開始	
1971年		・環境庁設置
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始	
1990年		・地球温暖化防止行動計画策定
1991年 3月	・生産各工場に「環境管理室」を設置	・経団連「地球環境憲章」制定 ・リサイクル法制定
1992年		・廃棄物処理及び清掃に関する法律改正
1993年 3月	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置	・環境基本法制定
1994年 10月	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減	
1995年		・容器包装リサイクル法制定
1996年		・ISO14001国際環境管理規格発効
1997年		・地球温暖化防止京都会議(COP3)開催
1998年 2月 3月	・営業車輛に天然ガス(CNG)車の導入開始(業界初) ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な活動推進組織を設置 「環境委員会」・「生産部会」・「商品物流部会」・「オフィス部会」及び 生産部会の下部組織として「工場環境委員会」を設置	・「地球温暖化対策推進大綱」制定 ・家電リサイクル法制定 ・エネルギーの使用合理化に関する法律(省エネ法)改正
1999年 2月 10月	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを導入	・PRTR法制定
2000年 2月 3月 4月 9月 10月 11月	・西宮工場がISO14001を認証取得 ・オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、内部環境監査を開始 ・西宮工場が廃棄物計量システムを導入 ・東京工場がISO14001を認証取得 ・豊橋工場が廃棄物計量システムを導入 ・豊橋工場がISO14001を認証取得	・循環型社会形成推進基本法制定 ・容器包装リサイクル法完全施行 ・建設リサイクル法制定 ・食品リサイクル法制定 ・グリーン購入法制定 ・環境省「環境会計ガイドライン(2000年版)」公表
2001年 1月 3月 4月 7月 10月	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動三カ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・九州工場が廃棄物計量システムを導入 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場でコージェネシステムが稼働 ・六甲工場がISO14001を認証取得	・家電リサイクル法制定 ・環境省「環境報告書ガイドライン(2000年版)」公表
2002年 2月 3月	・九州工場がISO14001を認証取得 ・サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部が ISO14001を認証取得 ・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定 ・環境推進組織「生産部会」の下部組織として「省エネ対策専門会議」を設置	・環境省「環境会計ガイドライン(2002年版)」公表 ・「地球温暖化対策推進大綱」(見直し)

環境活動に関するQ&A 今回は代表的な質問についてお答えします。

Q1. ハム・ソーセージなどの原料となる牛や豚を飼育している牧場があると思いますが、その牧場ではどのような環境対策をしているのですか。

A1. 当社直営の養豚農場では、豚舎から発生するオガクズや糞は自動的に堆肥舎に集積され、発酵処理ののち、有機肥料として、近隣農家で使用されています。また、洗浄水や尿などは敷地内に設置された廃水処理装置によって、基準値以下に浄化して排出しています。

Q2. 伊藤ハムはハム・ソーセージ以外の分野にも進出しておられますが、調理食品の工場や外食事業では、どのような環境対策が必要なのですか。

A2. 環境対策として重要なことは、すべての面で環境に配慮することが必要であり、それは生産工場も外食事業も同じです。原料(食材)、電力、燃料、水などのムダを省き、資源の使用を最小限にし、また、事業活動によって発生する余剰物を最小限にとどめて、再生利用に努めています。

2001年環境報告書アンケートについて

昨年発行しました「2001年環境報告書」のアンケートに多数お答えいただきありがとうございました。

環境報告書の内容につきましては、解りやすく飾ることもなく、オーバーな表現もなく、ページ数も適当で、充実しているとの評価をいただきました。また、活動内容及び掲載項目につきましては 環境会計の導入、クレーム数とその処理の公開、環境配慮型商品の強化、産業廃棄物のリサイクル率のアップ、天然ガス車の更なる導入などに関して貴重なご意見を賜りました。

2001年度の環境保全活動はみなさまのご意見を参考に展開し、その活動結果を「2002年環境報告書」としてとりまとめました。

2002年6月

伊藤ハム株式会社 環境安全推進室

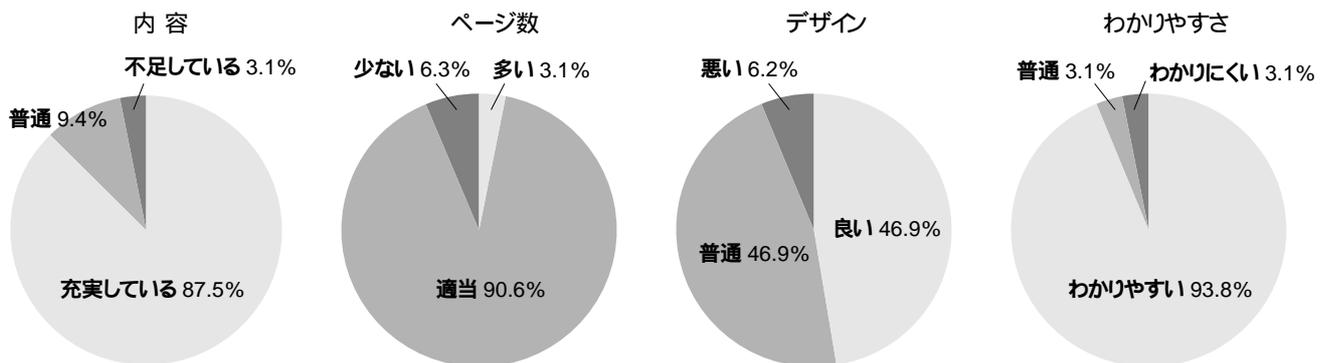
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町番4-27

TEL 0798-66-6900

FAX 0798-66-8611

「2001年環境報告書」アンケート集計結果(回収数32通)

1 「2001年環境報告書」の評価



2 「2001年環境報告書」の中で興味を持った内容

(比率:回答総数132に対する比率)..複数回答

	回答数	比率
経営理念	4	3.0
環境基本方針	6	4.5
環境活動の推進組織	4	3.0
事業活動に関する環境負荷	6	4.5
ISO14001の認証取得状況	10	7.6
社内環境監査 社内啓発活動	6	4.5
継続的改善サイクル	6	4.5
省エネルギーの取り組み	12	9.1
廃棄物の削減の取り組み	16	12.1

	回答数	比率
廃棄物の有効利用	20	15.2
温室効果ガスと化学物質の排出抑制	12	9.1
グリーン購入の取り組み	8	6.1
2000年度の主な取り組み	6	4.5
工場の取り組み実績	6	4.5
社内啓発活動	4	3.0
社会貢献活動	2	1.5
環境問題取組の歴史	4	3.0
その他		

3 当社の環境保全活動について



「2002年環境報告書」アンケート

ご意見・ご感想をお聞かせください。

伊藤ハム株式会社 環境安全推進室 行き
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27
F A X 0 7 9 8 - 6 6 - 8 6 1 1

Q1.本報告書をお読みになったの評価をお聞かせください。

・内容	充実している	普通	不足している
・ページ数	多い	適当	少ない
・デザイン	良い	普通	悪い
・分かりやすさ	分かりやすい	普通	分かりにくい

Q2.本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。

経営理念 環境基本方針 事業活動と環境負荷 2001年度の環境活動ハイライト 環境活動の推進組織
環境監査体制 ISO14001認証取得の推進 緊急時の対応 法規制遵守の状況 グリーン購入
中期環境目標 環境会計 省エネルギーの取り組み 温室効果ガスと化学物質の排出抑制
廃棄物の削減と有効利用 その他の環境負荷低減活動 情報開示 従業員教育 社会活動
伊藤ハムの取り組み実績 ①関連会社の取り組み実績 ②環境保全活動の沿革 ③環境活動に関するQ&A

Q3.当社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。

非常に評価できる 評価できる 普通 あまり評価できない
全く評価できない

その理由

Q4.当社の環境活動および環境情報開示について期待されることは何ですか。

.....

Q5.本環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。

お客さま お取引先 製品の購買ご担当者 株主 金融・投資機関
研究・教育機関 報道関係 行政関係 環境NGO・NPO
伊藤ハムグループ事業所の近隣の方 学生 環境の専門家
企業の環境ご担当者 その他()

Q6.本報告書の内容や環境保全活動全体に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....

ご協力ありがとうございました。さしつかえなければ、下記にもご記入ください。

お名前		性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご住所	〒					
	T E L						
	F A X						
	e - m a i l						